

## 令和7年度専門領域推進部 内部障がい領域 研修会及び症例検討会活動報告書

日時：令和7年8月2日（土）9:00～12:30 受付8時45分～

会場：山形県立新庄病院 会議室

形式：対面での研修会（120分の講義）と症例検討会（60分）の組み合わせ

参加費：1,000円

参加者：第一部、第二部：33名、 第三部：35名

テーマ：『検査結果やデータから全身状態を客観的にとらえる』

内容：第一部 全身状態の把握と循環に関する検査、指標

講師 山形県立新庄病院 黒坂浩平 氏 60分

第二部 全身状態の把握と呼吸に関する検査、指標

講師 日本海総合病院 本間豪 氏 60分

第三部 症例検討会 2症例 60分

重症肺炎と人工呼吸器管理を要したCS1心不全症例

発表者 日本海総合病院 本間豪 氏 30分

座長 山形県立中央病院 原田翔平 氏

誤嚥性肺炎を発症した症例

発表者 北村山公立病院 伊藤大亮 氏

座長 山形県立新庄病院 黒坂浩平 氏

内容の詳細：

第一部では黒坂氏より循環器の基本的な理学療法を行うために全身状態を客観的に把握できるよう心電図・胸部レントゲン・心エコー血液指標などを正しく読む方法など解説いただいた。それぞれの評価内容の結果を、理学療法を実施するにあたっての全身状態の把握やリスク管理などに繋げて考えられるよう、より理解を深められる内容であった。

第二部では本間氏より説明いただき、呼吸器疾患の基本的な理学療法を行うために、データから臨床症状を理解できるよう解剖学的な基礎やそれをもとに胸部レントゲンの画像とその背景を踏まえながら疾患の画像から読み取れる内容を、それぞれのレントゲン画像をもとに解説いただいた。画像と臨床を繋げられより理解を深められる内容であった。

第三部では、本間氏、伊藤氏よりそれぞれ症例の提示をいただいた。本間氏は、重症肺炎呈し人工呼吸管理を要した心不全症例を報告いただいた。第一部、二部の講義内容も組み合わせいただきながら多職種との連携や理学療法士として進めてきたことなどお話しいただき、患者様の背景と組み合わせ理解を深めていけた内容であった。伊藤氏は、誤嚥性肺炎を発症し呼吸苦や咳嗽を呈した症例であった。高齢で低アルブミン血症を伴っていたが臨床でもよく出会う症例であり、安静度が決められている中でどのようにリハビリを進めていけばいいかなど症例の理解を深めていけた内容であった。

